

教育長会見

2022年5月19日

神戸が目指す これからの学校の姿

人がつながり ともに創る みんなの学校

学校づくりの指針を策定

○教員間ハラスメント事案

- 再発防止等検討委員会の報告書

学校の閉鎖的な職場風土を改め、「開かれた学校づくり」を進めていく必要がある

○学校や子供たちをとりまく状況の急速な変化

社会状況

- 技術革新（ネット社会）
- グローバル化の急速な進展
- 少子高齢化の進行
- 共働き世帯の増加

学校教育環境

- GIGAスクール
- 小学校英語の教科化
- プログラミング教育
- いじめ、不登校、子供の貧困
- 体力・運動能力低下

保護者や地域の皆さんとの連携をこれまで以上に深め、
地域全体で子供たちの学びや成長を支える学校づくりを進める

開かれた学校づくりに関する有識者会議

保護者

地域の皆さん

現場の教職員

学識経験者



学校や地域の現状・課題をもとに
目指すべき学校づくりの方向性について議論

神戸が目指すこれからの学校の姿

人がつながり ともに創る みんなの学校

コンセプト

子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。
学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、
地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。

取組の3本柱

1 育てたい子供の姿を共有します

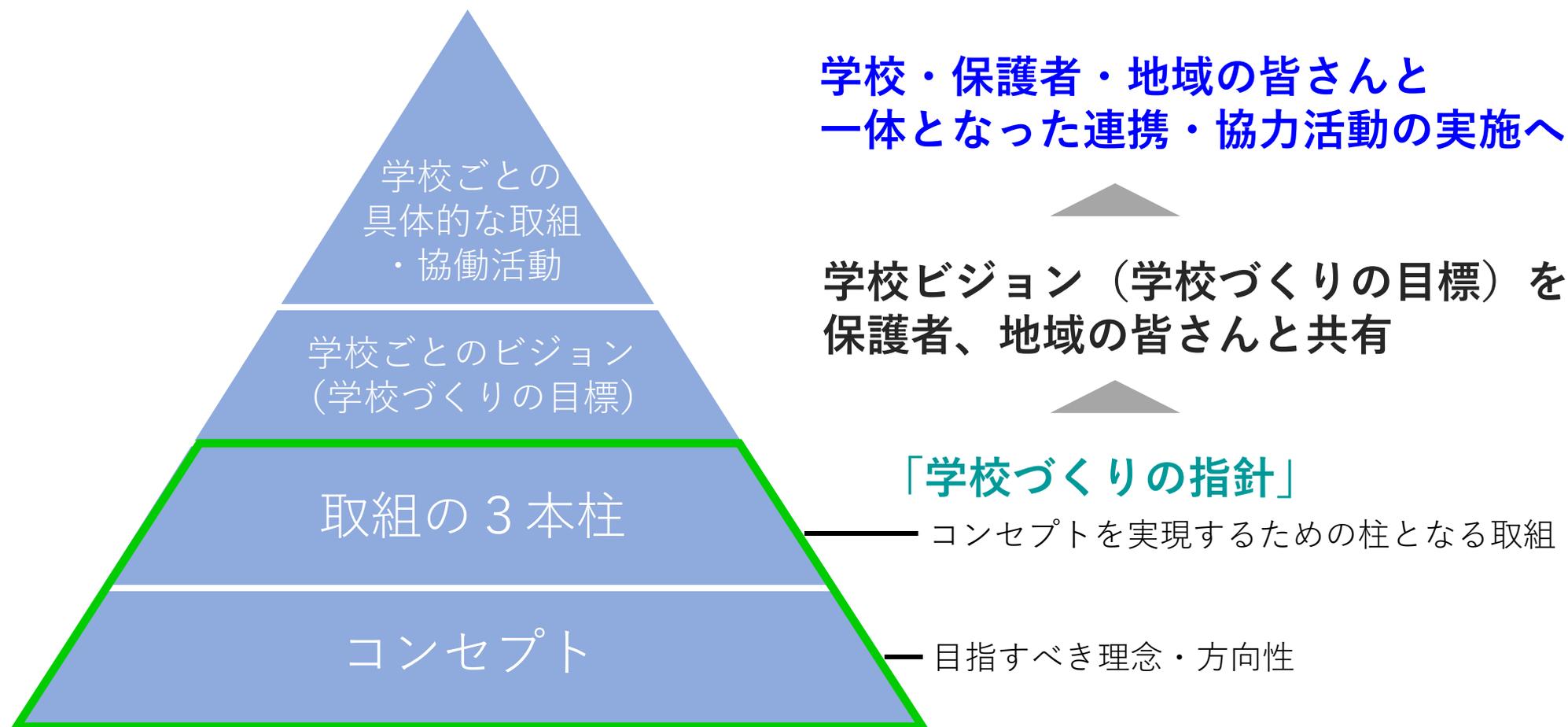
育てたい子供の姿を保護者、地域の皆さんと共有し、連帯感を持って子供たちの学びと成長を支えます。

2 親しみやすい学校をつくります

地域がつながる場として、みんなが訪れたくなる、親しみやすい学校環境をつくります。

3 子供を育む活動とともに進めます

保護者、地域の皆さんとの関わり合いと連携を深め、育てたい子供の姿の実現に向けて、ともに活動を進めます。



- コミュニティ・スクール：学校運営協議会を設置し、保護者・地域の皆さんと一体となった連携・協力活動を実施している学校



コミュニティ・スクール
推進ガイドラインを策定

学校・保護者・地域住民のつながりの中で子供たちを育成

- ・ 学校評議員に代わる形で、平成30年度より段階的に学校運営協議会を導入
- ・ 令和4年度中にすべての小・中学校、義務教育学校に学校運営協議会を設置

【学校運営協議会 設置校数の推移】

	平成30年度	令和3年度	令和4年4月	令和4年度中
小学校	7	25	140	162
中学校	4	23	59	81
義務教育学校	—	1	1	1
計	11	50	200	244

※合同設置校については小中それぞれでカウント

連携・協力活動の事例

BE KOBE

地域資源を題材とした学習



放課後学習支援



登下校時の見守り



育てたい子供の姿の共有

親しみやすい学校づくり

子供を育む活動の推進

人がつながり ともに創る みんなの学校

教職員

心豊かにたくましく
生きる神戸っ子

神戸っ子
応援団

保護者

地域
住民

地 域
団体等

令和4年度神戸市立小中学校における 水泳授業の実施

- ◆水泳授業は、水難事故防止に加えて水に親しむ楽しさや喜びを味わうことができる大切な学びの機会
- ◆小学校・中学校における水泳授業を3年ぶりに実施
 - ※感染防止のため2年間（2020年度・2021年度）は実施せず
- ◆感染防止対策・安全管理を徹底
- ◆実施期間は6月中旬から9月上旬まで

◆更衣室における対策

- ・一度に更衣する人数をできるだけ減らす
(更衣室の数を増やす、時間をずらす等)
- ・可能な限り換気を行う

◆マスクの取扱い

- ・更衣中はマスクを着用する
- ・更衣後マスクを外した後は、 unnecessary 会話をしないよう指導

◆学習活動

- ・プールに一斉に大人数が入らない（ローテーションを組んで活動する等）
- ・水に慣れるための時間を十分に確保
- ・緩やかな運動から徐々に取り組む

◆授業の時間数

- ・時間数（各学年10時間程度）を確保することが難しい学校においては、時間数を短縮することがある。

◆感染不安の児童生徒への対応

- ・水泳授業の参加に不安を感じる場合は、見学も可能